



今日はなぜそんな話から始まったのかというと、**黙示録 13 章**はそれに少し関係があるんです。聖書預言では、艱難時代に宗教的指導者が政治的指導者をバックアップして、その支配体制を完璧なものに仕上げていく。**黙示録 13 章**には、“反キリストが 7 年間の艱難時代の後半 3 年半に、全世界・全人類の上に君臨し支配する” という情報が書かれています。

しかし彼は、1 人でそれをするではありません。彼はやがて自らを神と名乗り、すべての人々の形式的服従だけでなく心の服従までも求めるのですが、その体制を仕上げるのに決定的役割を果たす、反キリストの協力者が出て来る。総理大臣における官房長官、もっと言うと、キリストの生涯における聖霊の役割を果たす人物が**黙示録 13 章後半**に出て来る。それは偽預言者です。

## 黙示録 13 章

### 11 また私は、別の獣が地から上って来るのを見た。

海から上って来る獣は反キリスト。

**地から上って来る獣**は偽預言者。サタンから派遣された、反キリストをサポートする助け手です。

**地から上って来る**。これは**天から下って来る**の対称形です。

イエスは 3 年半の間、救い主としての活動をなさいましたが、それは持ち前のご自分の力でというよりも、天から下った**聖霊**の力によってなされた。

聖霊は神の霊。三位一体の一つで、イエスは聖霊によって様々な働きをなされた、と聖書に書いてあります。聖霊は天から下った方。しかしここでは**地から上って来る獣**。天の対称である地。つまり、サタンによって遣わされた反キリストのための助け手。それが偽預言者なんですね。

偽預言者はどんな人物か。

### 11 それは、子羊の角に似た二本の角を持ち、竜が語るように語っていた。

黙示録の中で、**子羊**はイエス・キリストのことです。

**それは**イエス・キリストに似ているんですね。外見はイエスのように柔和でジェントルマン。結婚詐欺師って大体優しい人が多いですよ。詐欺師ほど優しいフリをする。

外見は**子羊の角に似た二本の角を持ち**、非常に柔和な紳士的装いだけど、中身は**竜**（サタン）が**語るように語っていた**。サタンが口にする言葉を語った。

真の創造主に対する冒涇を平気でやってのける人物なんですね。

偽預言者の役割は何か。

### 12 この獣は、最初の獣（反キリスト）が持っていたすべての権威を、その獣の前で働かせた。

### また、地と地に住む者たちに、致命的な傷が治った最初の獣を拜ませた。

偽預言者の使命は反キリストを礼拝させることです。

だれに礼拝させるのか。**地と地に住む者たちに**。これは**天に住む人たちの正反対**。対称形です。

この時代に天に住む人たちは、艱難時代の前に携拳された（天に引き上げられた）クリスチャンと、艱難時代にイエスを信じたために殉教して天国に行った人たちです。

**地に住む者たち**は、艱難時代にイエスを信じた人たちを殉教に追いやった人たち。反キリストに加担している者たち。天に住むということに何の関心も無く、反キリストが支配するこの地上に人生の土台を置く人たち。そんなニュアンスがあるんですね。

反キリストは彼らに、「死んでよみがえったのだから、拝むのに値する」と宣伝するんです。天国では、クリスチャンたちがイエス・キリストを礼拝しています。艱難時代の地上では、**地に住む者たち**が反キリストを礼拝している。これも大きなコントラストです。

**地に住む者たち**は、なぜ偽預言者の命令に従うのか。反キリストをこぞって拝むのか。理由は2つ。

1) **13 また、大きなしるしを行い、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。**

人々が偽預言者を受け入れたのは、彼が様々な奇跡を行ったからです。

しかも、しょうもない奇跡ではなく**大きなしるし**。誰が見ても度肝を抜かれるような大奇跡を、目の前でデモンストレーションするんですね。

1つ申し上げたいのは、奇跡を行う人が、いつも神からの人とは限りません。

サタンも奇跡を行うことができるからです。

今まで 様々な人たちがカルト宗教から脱会することに関わって来ましたが、彼らはなぜそんな世界に入り込んでしまったのか。みんな特別な経験・体験を持っているんですよ。

私に言わせたら、色んなカルト集団の中で起こっている“しるし”は大抵トリック・手品だと思います。

しかし中には、トリックでは説明がつかない本当に不思議な現象があるんですね。

だからといって、それが神からのものだという証拠にはなりません。

なぜなら、サタンもまた、人々の心を惑わすために様々な奇跡を行うからです。

**大きなしるし**/奇跡を行ったこの偽預言者は、人々の関心を買うのに奇跡を使ったんですね。

奇跡を行うからといって信用してはなりません。

**14 また、この獣は、あの獣の前で行うことが許されたしるしによって、地に住む者たちを惑わし、剣の傷を受けながらも生き返ったあの獣の像を造るように、地に住む者たちに命じた。**

**15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がものを言うことさえできるようにし、**

反キリストの姿の偶像を造り、それに命の息を吹き込んで、像が話をするようにした。ここの**像**は単数形。たくさんではなく1つ造って、エルサレム神殿の至聖所（しせいじょ）に安置されます。それは、聖書の他の箇所にはっきり書かれているんです。

世界中の多くのリーダーたちは難問を持って偶像の前に行きます。すると、その偶像が一発回答。解決を教えてくれるということでしょう。それでますます「ありがたや〜」となるんですね。このような利益をもたらす奇跡をやったのけ、反キリストは信頼に値するのだと宣伝するんです。しかし、それだけではありません。

2) **15 また、その像を拝まない者たちをみな殺すようにした。**

反キリストの偶像を礼拝することを拒否する人たちを**みな殺した**。

艱難時代後半、反キリストの偶像を断固として拝まない人たちは2種類います。

①艱難時代にイエス・キリストを信じた人たち。イエスをメシア/キリストと信じた人たちは、イエス以外は拝みません。

② 艱難時代後半に差し掛かった時、反キリストに目の敵にされて、ヨルダンの山に逃げ込んで行くユダヤ人たち。彼らはヨルダンの山の中のペトラという場所に匿われますが、そうでない人たちはみな殺されます。

艱難時代には、「クリスチャンとしてイエス・キリストだけを礼拝します」と告白する人たちは、ただでは済まないことになるのです。

反キリストをたたえることでメリットがもたらされる奇跡（アメ）と、反キリストを拝まないことによる皆殺し（ムチ）。アメとムチによって、この時代は「反キリスト万歳！」という体制が出来上がってしまうんですね。全人類が、いわゆる“反キリスト教 教徒”に染まっていく。それに抵抗できるのはイエス・キリストを信じる人たちだけ、という時代が来るのです。

一度 統一教会に洗脳されて取り込まれてしまったら、そこから抜け出すことは中々難しいです。「統一教会から脱会すると、恐ろしいことが自分や家族に降りかかってくるのだ」と思い込まされているから。

反キリストを受け入れた後で「やっぱりやめる」とはとても言えない。「そんなことしたら命を落とす」と思い込まされる時代。思い込まされるだけでなく、実際に命を落とす時代。それが艱難時代です。そこに艱難時代の困難さがあるのです。

艱難時代でもイエス・キリストを信じることは可能です。  
艱難時代にもイエス・キリストの福音は宣べ伝えられています。  
しかし、この時代にキリストを信じることは非常に困難を伴います。  
まさに命と引き換えの恐ろしいことなのです。

今の時代はそうではありません。**第二コリント 6 章 2 節 今は恵みの時、今は救いの日です。**  
艱難時代に入ることを、わざわざ選ぶ必要はないと思います。  
まだイエス・キリストを受け入れていない方は、聖書の信頼性・間違いのない聖書の約束に従って、この**恵みの時代、救いの日**の時代に、イエスをご自分の救い主として信じ受け入れてください。そして、罪の完全な赦しと永遠のいのちを頂いてください。

ごうちゃんねる、ますます言いたいことを言っていきたいと思います。  
よろしければ、またお付き合い下さい。チャンネル登録もお願いします。  
ではまた お目にかかりましょう。皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。